

社長所感（5月）

青葉、若葉を吹き抜ける風が心地よく、明るい日差しの下、街路のつつじやハナミズキも輝いて見える頃となりました。

この陽光を、熊本地震のため、避難所などで不自由な暮らしを送られながら眺めておられる方もいらっしゃるかと存じます。

お見舞い申し上げますとともに、1日も早い復旧を心よりお祈りいたします。

私事で恐縮ですが、21年前の1月17日の阪神・淡路大震災を思い出しました。

私の実家が神戸で、大震災の際、母が一人で住んでいました。早朝の地震でしたので、就寝中の母の体の上に、左から洋服ダンスが右から仏壇が倒れ掛かってきましたが、丁度、漢字の「人」の形のように洋服ダンスを仏壇が支えるようになったため、三角形の空間ができ、助かったといったことがありました。

幸い母はかすり傷ひとつ負いませんでしたが、それでも、あれだけの大地震でしたので、小・中・高の同級生のご両親など、知っている方が6名亡くなりました。

私も、すぐに神戸に向かいましたが、西宮北口以西は電車が不通でしたので、4時間歩いて実家に、母と犬を連れて5時間かけて西宮北口に戻り、電車で大阪に出て、ホテルで一泊いたしました。この際、友人のホテル支配人に無理を言って、犬も泊めてもらうなど便宜を図ってもらいました。

東京の宿舎で3か月一緒に暮らし、4月になって、電気・水道・ガスのライフラインが復旧しましたので、母は住み慣れた神戸に帰って行きました。

大正生まれの女性でしたので、「戦時中の苦勞に比べれば、こんなもん大したことはない。」と言いながら、壊れた屋根の復旧や新しい日常生活の取戻しなど元気に取り組んでいきました。

神戸と言ひ、熊本と言ひ、普段、災害がないと思われていた所で大災害が発生したのも、日本列島全体が、変動帯という火山帯の上に乗っかっているためです。

変動帯は、温泉、美味しい水、加賀野菜、京野菜といった旨い農産物などの恵みをもたらします。さらに、数多くの山塊や河川を生み出すため、その仕切りで感染症が流行しにくいというメリットもあります。

しかし、地震、津波、山崩れ、河川の氾濫など自然災害と無縁な地域がないというのも変動帯の特徴で、このため、自然災害と如何にうまく付き合い、免災、防災、減災をどう図っていくかがポイントとなると思われます。

日頃の人間の行為の中にも、災害に対する脆弱化をもたらしているものが多数あります。

例えば、里山の荒廃や地下水の汲上げ過ぎ、河川の暗渠化、災害に対する伝承の中断などです。そこで、このような現実を地道に改善していくために、何をすべきか、何ができるかなど専門家の知恵を借りながら、研究していきたいと思っています。